

KENWOOD

ステレオ インテグレートッド アンプ

KAF-3010R

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

2 本機の特徴

ソース ダイレクト

SOURCE DIRECT機能

インプット セレクター
INPUT SELECTORで選ばれた音楽ソースを、高品位な音質で楽しむことができます。

目次

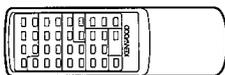
▲ のついた項目は安全確保のために必ずお読みください。

▲ 安全上のご注意	3	音の調節のしかた	15
知っておきましょう	7	一時的に音を消す	15
接続のしかた	8	左右の音量バランスを調節する	15
システムコントロール接続	9	音質を調整する	15
スピーカーの接続	10	重低音の補正	15
各部のなまえと働き	11	ヘッドホンで聴く	16
本体	11	音楽ソースを高音質な音で聴く	16
リモコン	12	録音のしかた	17
リモコンの使いかた	13	音楽ソースを録音する	17
電池の入れかた	13	故障と思われる症状ですが	18
操作のしかた	13	▲ 定格	19
音楽を聴く	14	保証とアフターサービス	20
普通の再生	14		

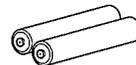
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

リモートコントロール
ユニット(1個)



リモコン用単3乾電池(2個)



製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用前によくお読みください。

この「安全上のご注意」には、当社の本機以外のオーディオ機器全般についての内容も記載しています。
(説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります。)

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

お客様、または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の故障、誤動作または不具合による、テープやディスク等へ記録された内容の損害、および録音、再生など、お客様または第三者が製品利用の機会を逸したために発生した損害等、付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

指定以外の電圧では使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。
《交流100ボルト以外の電圧で使用すると、火災、感電の原因になります》



電源コードの取扱い

電源コードを傷つけないでください。無理な曲げ、ねじり、引っ張りや、加熱、加工などを加えないよう、ご注意ください。

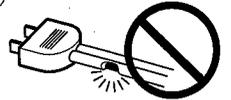


使用禁止

電源コードが傷ついたら
(芯線の露出や断線など)
使用しないでください。

《火災や感電の危険があります》

• 修理をご依頼ください。



放熱に注意

設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔です。ふさがないように、ご注意ください。



- 風通しの悪い、狭い所に押し込まない。
 - 横倒し、あおむけ、逆さまに置かない。
 - 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置かない。
- 《通風孔がふさがると、内部が異常高温となり、火災の原因になります》

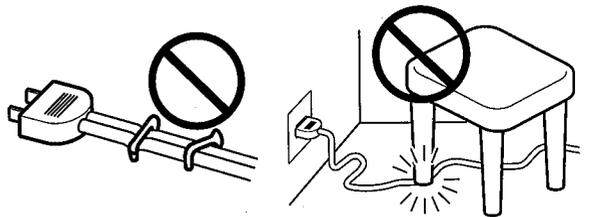


電源コードの配線に注意

電源プラグをコンセントに接続するときは、次のことに十分ご注意ください。



- 電源コードの上に機器本体や、重いものを置かない。
 - 敷物の下に電源コードを隠さない。
 - 電源コードをステーブルや釘などで固定しない。
 - 足を引っ掛ける恐れがある配線をしなない。
- 《コードが傷つき、火災や感電の原因になります》



風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など、湿度の高いところや、水はねのある場所で使用しないでください。
《火災や感電の危険があります》



風呂、シャワー室での使用禁止



異常かな？と思ったら

煙が出たり、変な臭いや音がする場合、機器の使用を中止してください。

《火災や感電の危険があります》

- 直ちに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 安全を確かめてから、修理をご依頼ください。



電源プラグをコンセントから抜け

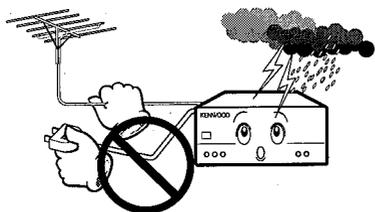


雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグに触れないでください。
《感電の危険があります》

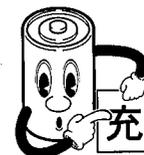


接触禁止



乾電池は充電しない

《電池の破裂、液漏れにより、火災や、けがの原因になります》



充電禁止



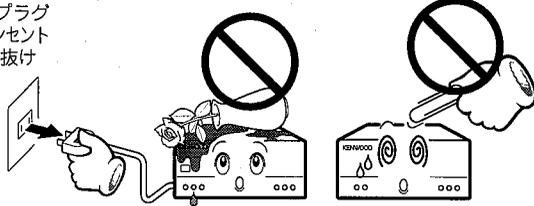
機器の内部に異物や水を入れない
 内部に水や、異物が入った場合、機器の使用を中止してください。
《火災や感電の危険があります》

水ぬれ禁止



電源プラグをコンセントから抜く

- 電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 点検、修理をご依頼ください。



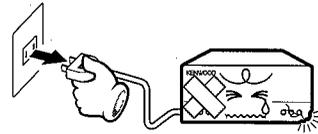
落下した機器は使わない



電源プラグをコンセントから抜く

落としたり、カバーやケースがこわれた機器を、使用しないでください。
《火災や感電の危険があります》

- 電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 点検、修理をご依頼ください。



ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
《内部には電圧の高い部分があり、火災や感電の危険があります》

- 点検、修理は販売店またはケンウッド営業所へご依頼ください。



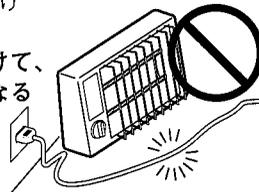
分解禁止

注意

電源コードは熱器具の近くを避けて

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近付けないでください。

《コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因になることがあります》



指定以外のコードを使わない



関連機器を接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、接続には、指定のコードをご使用ください。

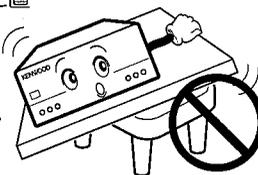
《指定以外のコードの使用や、コードの延長は、発熱ならびに、やけどの原因になることがあります》

- 指定コードが不明の場合は、販売店にご相談ください。

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。

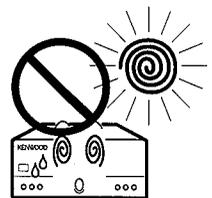
《落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります》



温度の高い場所には置かない

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。

《本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります》



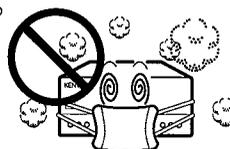
湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそばや、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。

《火災や感電の原因になることがあります》



水ぬれ禁止



長期間使用しないときは



電源プラグをコンセントから抜く

長期間、機器を使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

《電源プラグをコンセントに接続したまま長期間放置すると火災の原因になることがあります》

音量に気をつけて



はじめに、音量(ボリューム)を最小にしてください。

《突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります》

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

《耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力障害の原因になることがあります》

お手入れの際は



電源プラグをコンセントから抜け

お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

《電源プラグをコンセントに接続したままでの作業は、感電の原因になることがあります》

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。もよりの販売店、またはケンウッド営業所に費用を含めご相談ください。

《内部にほこりがたまったまま長期間使用すると、火災や故障の原因になることがあります》



お子様にご注意

お子様が機器に乗ったり、ぶら下がったりしないように、ご注意ください。

《倒れたり、こわれたりして、けがの原因になることがあります》



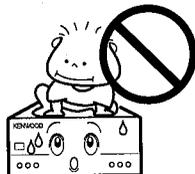
指をはさまれないよう注意

お子様がカセットテープやディスクの挿入口に、手を入れないように、ご注意ください。

《けがの原因になることがあります》

電池はお子様の手が届かないところに置いてください。

《電池を飲み込むおそれがあります》



電池の取扱い



電池は誤った使い方をすると、感電、破裂、発火の危険があります。また、乾電池は液漏れにより機器を腐食させたり、手や衣類を汚す原因にもなります。次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"-")の向きに注意し、表示通りに入れてください。
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。



電源プラグの抜き差しは



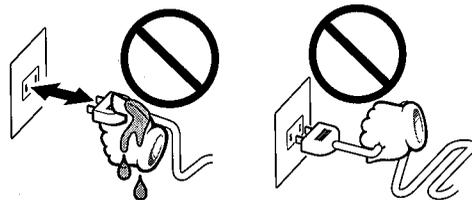
ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

《感電の原因になることがあります》

電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜いてください。

《コードの部分引っ張ると、コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります》



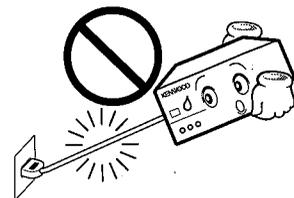
機器を移動させる際は



電源プラグをコンセントから抜け

移動の前に、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コード(アンテナ線や機器間の接続コードなど)を、はずしてください。

《接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります》



電源プラグは清潔に



1年に1度くらいは、電源プラグをコンセントから抜いて清掃してください。

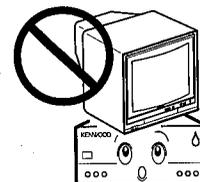
《電源プラグにほこりがたまると、火災の原因になることがあります》



指定機器以外のものを乗せない

機器の上に指定機器以外の物体を乗せないでください。

《乗せた物体の落下により、けがをする原因になることがあります。また、乗せた物体の形や重量によっては、放熱効果が悪化したり、カバーやケースが変形して、火災、感電の原因になることもあります》

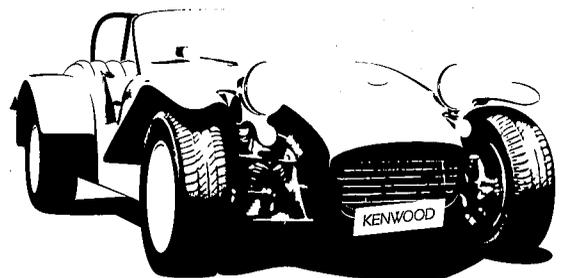


メンテナンス

- 前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。
- 接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。とくにオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。



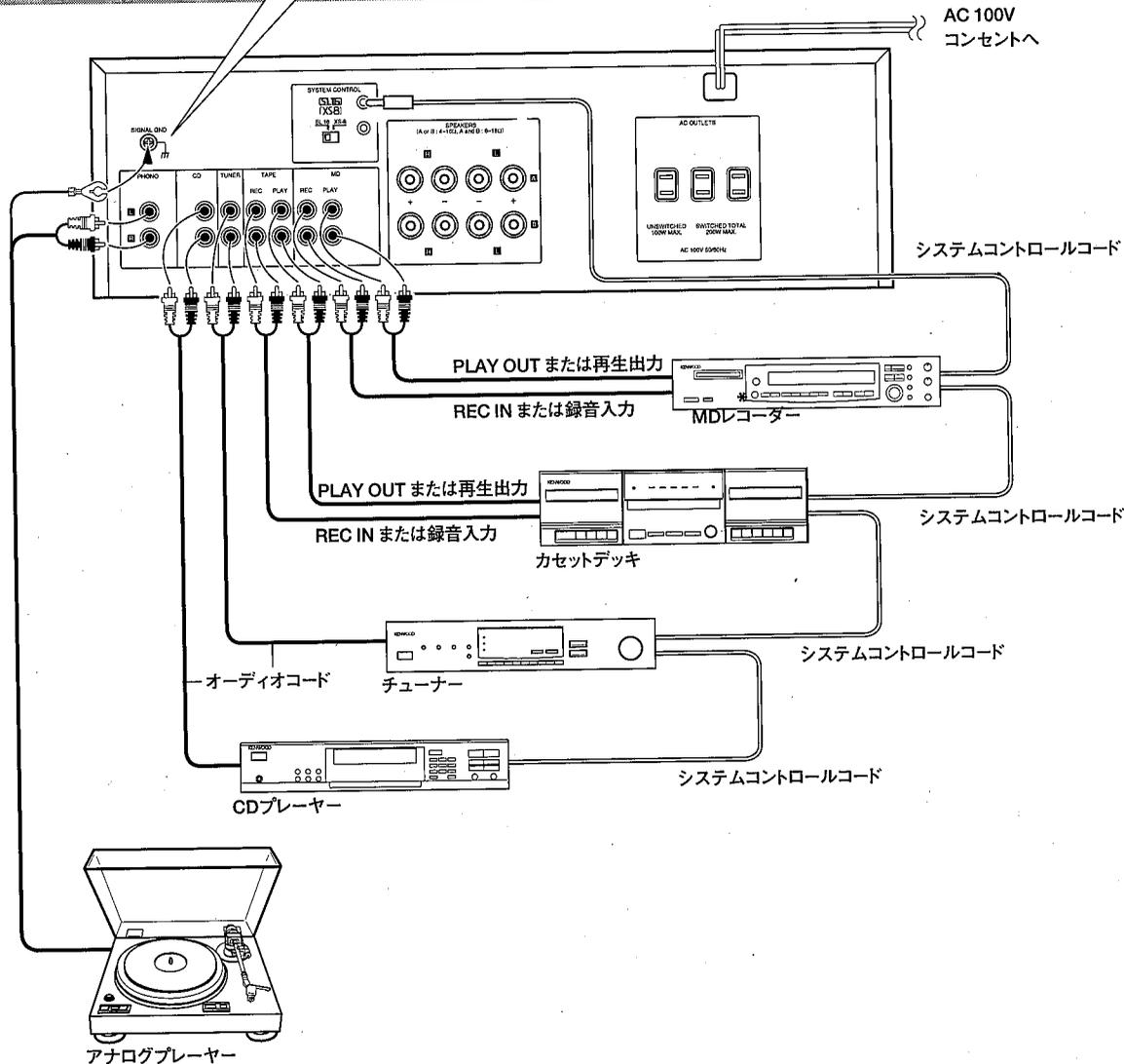
注意 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続をするときは下図のように行ってください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

注意 この端子はアナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音の低減を図るためのものです。安全アースではありません。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障と思われる症状ですが...」を参照してマイコンをリセットしてください。



外部用電源コンセントについて

連動コンセント(SWITCHED)^{スイッチド}(最大200W^{ワット}まで)
カセットデッキ、レコードプレーヤー、CDプレーヤー等の電源プラグを差し込むことができます。それらの機器のPOWER^{パワー}スイッチをONにしておけば、本機のPOWER^{パワー}キーと連動してON/OFFしますので便利です。

非連動コンセント(UNSWITCHED)^{アンスイッチド}(最大100W^{ワット}まで)
本機のPOWER^{パワー}キーと連動させる必要のないオーディオ機器の電源プラグを差し込みます。

警告

背面のACコンセントが供給できる電力は連動コンセント(SWITCHED)^{スイッチド}がトータルで最大200W^{ワット}まで、非連動コンセント(UNSWITCHED)^{アンスイッチド}が最大100W^{ワット}までです。接続する装置の消費電力がそれぞれの値を超えないようにしてください。火災の原因になります。電熱器、ヘヤドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

システムコントロール接続

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したとき、システムコントロールコードを接続することで、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。

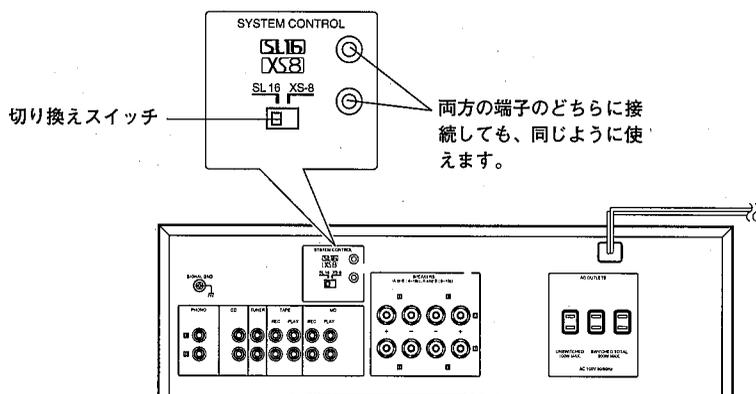
ケンウッドのシステムコントロールは、2種類のモードがあります。下記の端子記号の組み合わせ例に従って接続してください。

[XS 8] のモード : [XR]、[XS]、[XS8]の組み合わせができます。

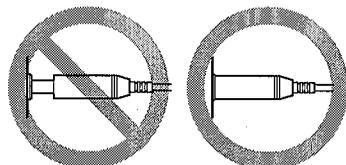
[SL16] のモード : [SL16]のみの組み合わせです。

本機は[XS 8]と、[SL16]の両方に対応しています。

- システムコントロール接続する機種が全て[XS 8]のモードに設定されている場合、背面のSYSTEM CONTROL切り換えスイッチをXS 8側に切り換えて接続してください。
- システムコントロール接続する機種が全て[SL 16]のモードに設定されている場合、背面のSYSTEM CONTROL切り換えスイッチをSL 16側に切り換えて接続してください。



1. [SL 16]と[XR]、[XS]、[XS 8]等とのシステム動作の組み合わせはできません。もし、このような組み合わせであった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールコードを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
2. アンプ、レーザーにシステムコントロール端子がない場合は、どのシステムコントロール端子にもなにも接続しないでください。
4. 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
5. システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。



システムコントロール動作について

リモートコントロール

本機付属のリモコンで、システム機器のリモートコントロール操作ができます。

イージーオペレーション ([XR] の表示記号のある機器と接続した場合を除く)

ソース側機器の再生を始めると、本機の入力切換が自動的にその機器の入力切換に切り換わります。

シンクロ録音 ([XR] の表示記号のある機器と接続した場合を除く)

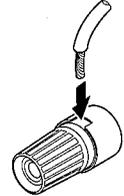
CD、MD、LDを録音するときに、プレーヤーの再生を始めると、連動して録音をスタートすることができます。

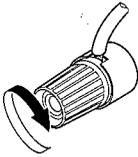
スピーカーの接続

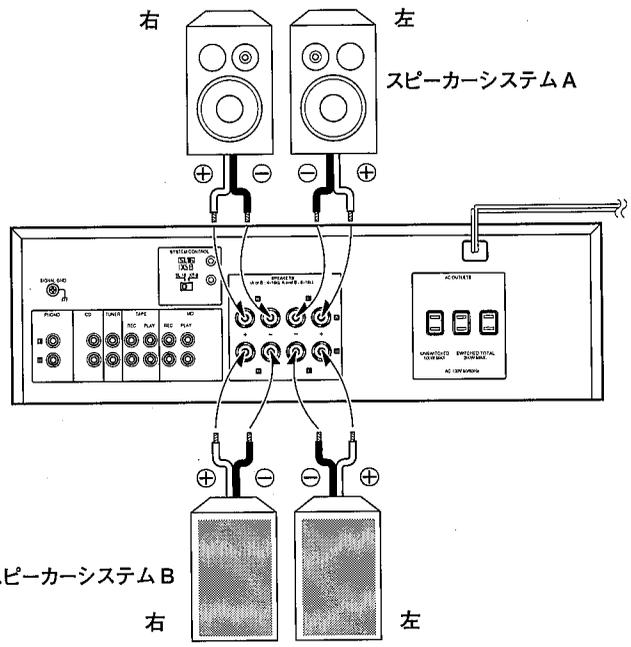
スピーカーコードの芯線が他の端子に触れないようにしてください。

① コードの処理 

② ゆるめる 

③ 差し込む 

④ 締める 



バナナプラグ付きコードを接続するとき

① 端子を締める

② プラグを差し込む

● 端子を最後まで締めてください。締まっていないと、音が出なくなることがあります。

- スピーカーコードの+と-は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性をまちがえて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーのインピーダンスについて

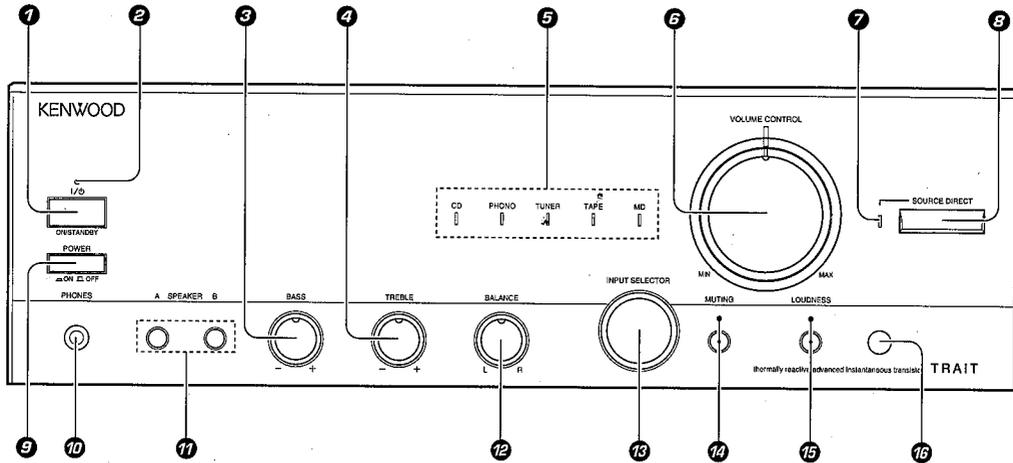
スピーカーズ SPEAKERS AまたはB端子のいずれか一方のみに接続する場合は、4~16オームのインピーダンスのスピーカーをご使用ください。

SPEAKERS A,B両端子にスピーカーシステムを接続してA ON/B ONで使用する場合は、8~16オームのインピーダンスのスピーカーをご使用ください。もし、一本でも8オーム未満のものを接続しますと、アンプの故障の原因となることがあります。



1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かず接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因になります。

本体



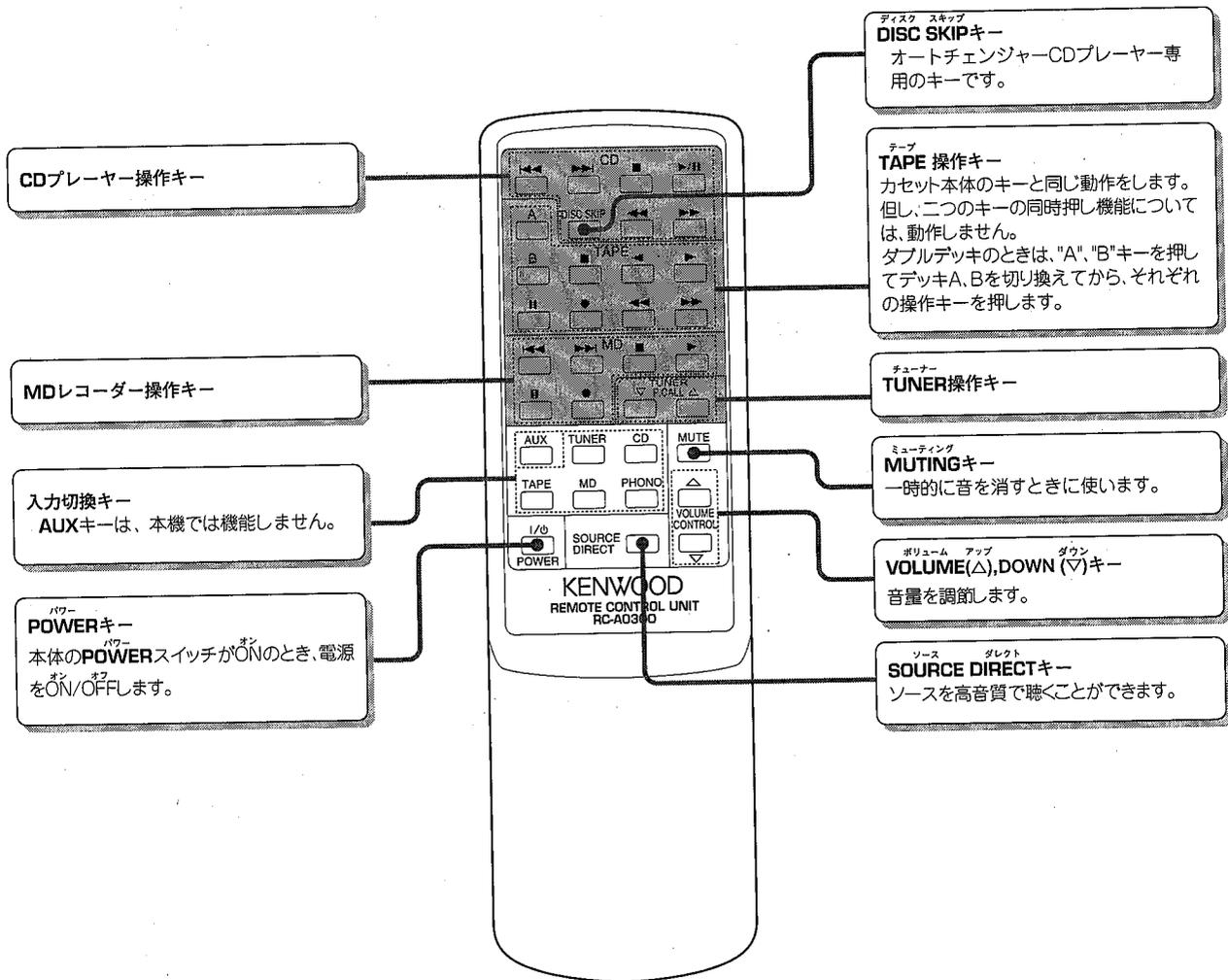
- | | | | |
|---|------|--|------|
| <p>1 <small>オン</small> <small>スタンバイ</small>
ON/STANDBYキー
<small>パワー</small>
POWERスイッチ(9)がONの時、このキーで電源をONまたはOFF(スタンバイ・モード)にできます。</p> | - 14 | <p>10 <small>ホンズ</small>
PHONES端子
ヘッドホンで聴くときに使います。</p> | - 16 |
| <p>2 <small>スタンバイ</small>
スタンバイ・インジケーター</p> | - 14 | <p>11 <small>スピーカーズ</small>
SPEAKERS A/Bスイッチ
スピーカークのON/OFFを切り換えます。</p> | - 14 |
| <p>3 <small>バス</small>
BASSつまみ
低音を調節します。</p> | - 15 | <p>12 <small>バランス</small>
BALANCEつまみ
左右の音量バランスを調節します。</p> | - 15 |
| <p>4 <small>トレブル</small>
TREBLEつまみ
高音を調節します。</p> | - 15 | <p>13 <small>インプット</small> <small>セレクター</small>
INPUT SELECTORつまみ
入力を切り換えます。</p> | - 14 |
| <p>5 <small>インプット</small>
インプットインジケーター
入力切換キーで選ばれたソースのインジケータが点灯します。</p> | - 14 | <p>14 <small>ミュート</small>
MUTINGキー/インジケータ
一時的に音を消すときに使います。</p> | - 15 |
| <p>6 <small>ボリューム</small> <small>コントロール</small>
VOLUME CONTROLつまみ
音量を調節します。</p> | - 14 | <p>15 <small>ラウドネス</small>
LOUDNESSキー/インジケータ
重低音を補正します。</p> | - 15 |
| <p>7 <small>ソース</small> <small>ダイレクト</small>
SOURCE DIRECTインジケータ</p> | - 16 | <p>16 <small>リモコン</small>
リモコン受光部</p> | - 13 |
| <p>8 <small>ソース</small> <small>ダイレクト</small>
SOURCE DIRECTキー
ソース(入力切り換えで選ばれた音)を高音質で聴くことができます。</p> | - 16 | | |
| <p>9 <small>パワー</small>
POWERスイッチ
主電源をON/OFFします。このスイッチをONにしておくと、ON/STANDBYキー(1)や、リモコン操作で電源をONまたはOFF(スタンバイ・モード)にできます。</p> | - 14 | | |

スタンバイ・インジケータについて

本機にはスタンバイインジケータがついており、このスタンバイインジケータが点灯しているときは、メモリー保護のため、微弱な通電を行なっているものです。これをスタンバイ状態といいます。スタンバイインジケータが点灯しているとき、本機のON/STANDBYキーや、リモコン操作によってON/OFFができます。

12 リモコン

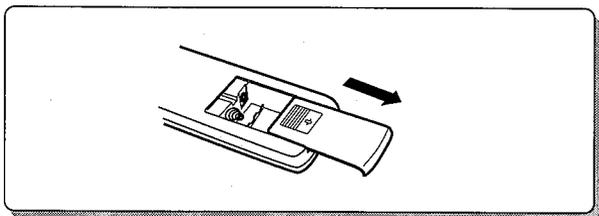
図中の  部分は、システムコントロール接続されたケンウッド製品の操作キーを示し、その他は本体と同じ機能をもった操作キーを示します。



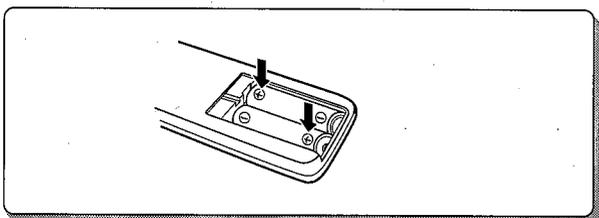
型式: RC-A0300
赤外線方式

電池の入れかた

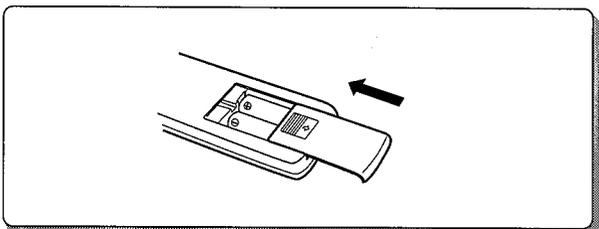
1 カバーを開ける



2 電池を入れる



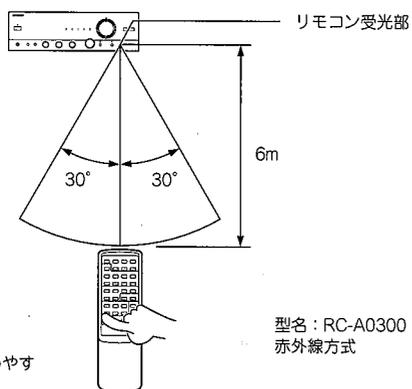
3 カバーを閉める



●単3乾電池 (R6/SUM-3) 2個を極性マークに従って入れる。

操作のしかた

スタンバイインジケータが点灯しているときに、リモコンのPOWER^{パワー}キーを押すと、電源がONになります。電源がONになったら、操作したいキーを押します。



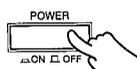
操作範囲のめやす

●リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

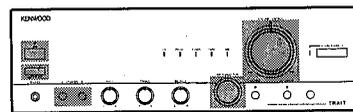
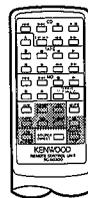


1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

準備



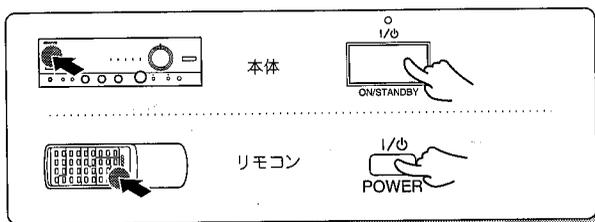
最初にPOWERスイッチを^{パワー}ONにして主電源を入れます。通常はPOWERスイッチをON^{オン}しておくとリモコンで電源のON/OFF^{オン/オフ}をすることができます。



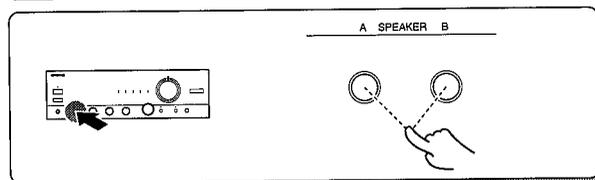
■：使用するキー、または、つまみ等を示します。

普通の再生

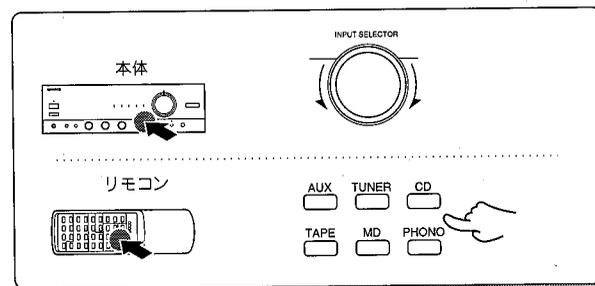
1 電源を入れる



2 スピーカースイッチを選ぶ

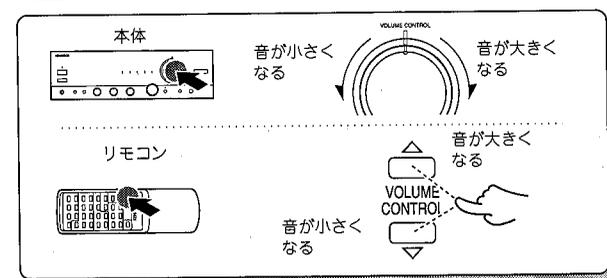


3 聴きたいソースを選ぶ



4 選んだソースを再生する

5 音量を調節する

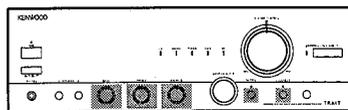
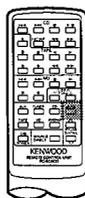


- A OFF/B OFF**
スピーカ^{オフ}からは音が出ません。ヘッドホンを使うときなどに使用します。
- A ON/B OFF**
背面のSPEAKERS^{スピーカース} A端子に接続されたスピーカから音が出ます。
- A OFF/B ON**
背面のSPEAKERS B端子に接続されたスピーカから音が出ます。
- A ON/B ON**
背面のSPEAKERS A端子とB端子に接続されたスピーカから同時に音が出ます。

いずれかが点灯

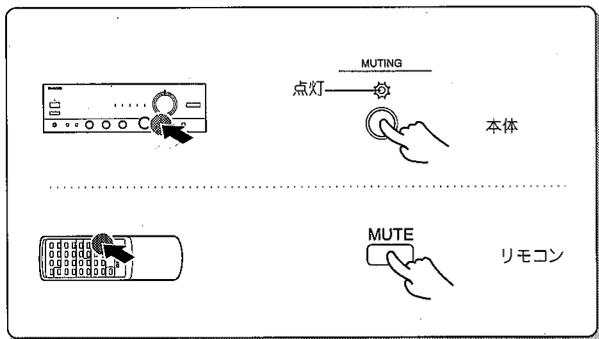


- 選ばれたソースのインジケータが点灯します。
- リモコンのAUXキーは、本機では選択できません。



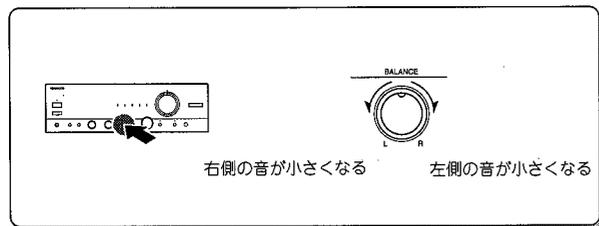
■：使用するキー、または、つまみ等を示します。

一時的に音を消す



- もう一度押すと元の音量に戻り、^{ミュート}MUTINGインジケータが消灯します。

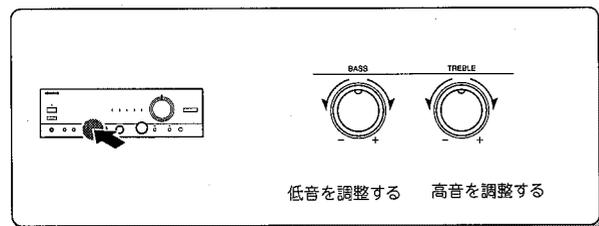
左右の音量バランスを調節する



- ^{ソース}SOURCE ^{ダイレクト}DIRECTインジケータが消灯していることを確認します。

→ 16

音質を調整する



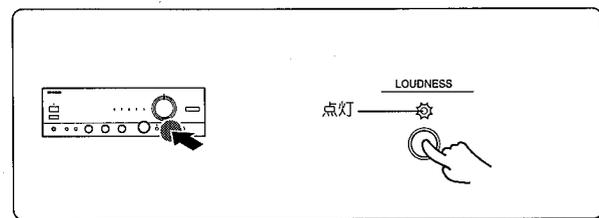
- ^{ソース}SOURCE ^{ダイレクト}DIRECTインジケータが消灯していることを確認します。

→ 16

ラウドネス

重低音の補正 (LOUDNESS)

小さい音量で聴くときに、人間の耳に聞こえにくくなる低域を補正します。

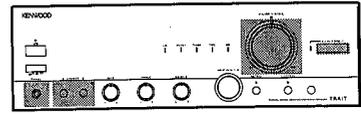


- ^{ソース}SOURCE ^{ダイレクト}DIRECTインジケータが消灯していることを確認します。

→ 16

ラウドネス
LOUDNESSを解除するには

- もう一度^{ラウドネス}LOUDNESSキーを押します。
- ^{ラウドネス}LOUDNESSインジケータが消灯します。



：使用するキー、または、つまみ等を示します。

ヘッドホンで聴く

① ^{スピーカーズ} SPEAKERSスイッチを^{オフ}OFFにする

A SPEAKER B

② ヘッドホンのプラグを^{ホンズ}PHONES端子に差し込む

PHONES

③ 音量を調節する

音が小さくなる 音が大きくなる

VOLUME CONTROL

本体

音が大きくなる 音が小さくなる

VOLUME CONTROL

リモコン

ソース ダイレクト

音楽ソースを高音質な音で聴く(SOURCE DIRECT)

音楽ソースを高音質な音で聴きたいとき、不要な回路を飛び越して再生します。

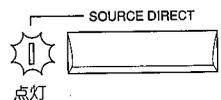
SOURCE DIRECT

本体

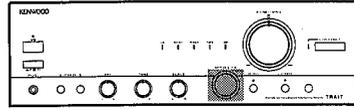
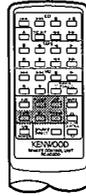
SOURCE DIRECT

リモコン

- SOURCE DIRECTがONの状態(SOURCE DIRECTインジケーターが点灯)では、音質調整、音量バランス、LOUDNESSは機能しません。
- 入力切替で選ばれたソースが、SOURCE DIRECTONになります。



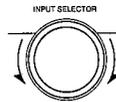
ソース ダイレクト
SOURCE DIRECTを解除するには
もう一度SOURCE DIRECTキーを押します。



■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

音楽ソースを録音する

① 録音するソースを選ぶ



- ② カセットデッキ、またはMDレコーダーを録音待機状態にする
- ③ ソース(入力の音源)を再生し、録音を開始する

いずれかが点灯

CD PHONO TUNER TAPE MD

- 選ばれたソースのインジケーターが点灯します。

- テープTAPEを選んだときは、MDレコーダーに録音することができます。
- MDを選んだときは、カセットデッキに録音することができます。

故障と思われる症状ですが

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

マイコンをリセットするには

電源がONのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。
マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

^{パワー}POWERスイッチを押して電源を^{オフ}OFFにしたあと、^{ソース}SOURCE DIRECTキーを押しながら^{パワー}POWERスイッチをONにする。

- リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

リモコン部

症 状	原 因	処 置
リモコンで操作できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●本体の^{パワー}POWERスイッチが^{オフ}OFFになっている。 ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●システムコントロールコードが正しく接続されていない。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本体の^{パワー}POWERスイッチを^{オン}ONにする。→14 ●新しい電池に入れ換える。→13 ●操作範囲内で操作する。→13 ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。→8 → 9 ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。

アンプ部・スピーカー部

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●^{ミュート}MUTINGが^{オン}ONになっている。 ●^{スピーカー}SPEAKERSスイッチが^{オフ}OFFになっている。 ●システムコントロールコードの接続がはずれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ●適当な音量にする。→14 ●^{ミュート}MUTINGを^{オフ}OFFにする。→15 ●^{スピーカー}SPEAKERSスイッチを選ぶ。→14 ●システムコントロールコードの接続を確認する。→8 → 9
スタンバイインジケータが点滅し、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがショートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一時電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源スイッチを入れる。
スピーカーの片側から音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●^{バランス}BALANCEつまみが片側いっぱい絞られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。→10 ●左右のバランスを調節する。→15

スピーカー保護回路 (プロテクション) について

誤ってスピーカーコードがショートしたまま本機の電源を入れますと、スピーカー保護回路が働きます。この場合、一度電源を切り、スピーカーコードのショートを取り除き、再度電源を入れてください。通常の使用状態に戻ります。

出力

定格出力 40 Hz ~ 20 kHz, 0.06% T.H.D.
 4 Ω 85 W+85 W
 8 Ω 65 W+65 W

定格出力 (EIAJ /1kHz, 10% T.H.D.)
 4 Ω 120 W+120 W
 8 Ω 85 W+85 W

ダンピングファクター 42 (50 Hz)
 全高調波ひずみ率 0.04 % (20 Hz ~ 20 kHz, 40 W, 4 Ω)
 0.01 % (1 kHz, 40 W, 4 Ω)

周波数特性

LINE (CD, TUNER, TAPE, MD)
 5 Hz ~ 85 kHz, +0 dB, -3 dB

イコライザ偏差 20 Hz ~ 20 kHz, +1.0 dB, -1.0 dB

最大許容入力電圧

PHONO (MM) 100 mV, 0.5 %

SN比

PHONO (MM) 72 dB (IHF' 66)

LINE (CD, TUNER, TAPE, MD) 100 dB (IHF' 66)

入力感度/インピーダンス

PHONO (MM) 2.5 mV/33 kΩ

LINE (CD, TUNER, TAPE, MD) 200 mV/47 kΩ

トーンコントロール特性

BASS ±10 dB (100 Hz)

TREBLE ±10 dB (10 kHz)

ラウドネスコントロール特性

(音量ボリューム -30 dB) +9 dB (100 Hz)

出力レベル/インピーダンス

TAPE REC/MD REC 200 mV/2.7 kΩ

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 AC100 V, 50 Hz/60 Hz

定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) 180 W

ACアウトレット 2 (連動最大合計 200 W)

1 (非連動最大 100 W)

最大外形寸法 幅 440 mm

高さ 145 mm

奥行 400 mm

質量 (重量) 8.3 kg (正味)



- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い(0℃以下の)場所では、十分な性能を発揮できないことがあります。

保証書 (別途添付)

この製品には、保証書を(別途)添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所へお問い合わせください。
(お問い合わせ先は、添付の“ケンウッドサービス網”をご覧ください)

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
この期間は、通省産業省の指導によるものです。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器に製造シリアル番号がつけられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼されるときは

“故障かな?と思ったら”に従って調べていただき、なお異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

出張修理/持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号 (Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状 (できるだけ具体的に)
- ご住所 (ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

修理料金の仕組み (有料修理の場合は、つぎの料金をいただきます)

- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費や、一般管理費等が含まれます。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金および通行料金をいただく場合があります。

お買い上げ店名

電話 ()

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒150-8501 東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

商品および、商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。

お客様相談室 (東京) 電話 (03) 3477-5335 〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9 (ケンウッド青葉台ビル)

(大阪) 電話 (06) 357-5335 〒534-0024 大阪府都島区東野田町 1-20-5 (大阪京橋第一生命ビル)